

家庭科で取組む



防災教育

～日々の生活から災害に備える～



災害に対応する能力を培うために

災害に適切に対応する能力の基礎を培うということは、『生きる力』を育むということです。家庭科の学習内容でも災害時に役立つことがたくさんあることを伝えたくて「日々の備え」の特集をつくりました。

日々のそなえ 備え **針と糸**

針と糸は、防災用品といっしょにいつでも持ち出せるようにしましょう。ぞうきんなどをぬったり、着る人に合わせて服を直したり、きっと役に立ちます。



日々のそなえ 備え **なべでたくご飯**

今は電気炊飯器でたくことが多いご飯も、昔はかまどの火に釜をかけてたいていました。電気やガスが使えない場面でも、なべでご飯をたいた経験は、きっと役に立ちます。計量カップやはかりが手近になくても、別の容器で米の体積を確認し、およそ1.2倍の水を加えればよいのです。

関連
↳ 社会3・4年「古い道具と昔の暮らし」

日々のそなえ 備え **整理・整とん**

日ごろの整理・整とんは、災害時のにげ道をふさがないためにも大切です。また、電気製品のプラグとコンセントの間にたまったほこりが、発火の原因になることもあるので、そうじをすることは防災のためにも重要です。

学んだこと生かし、災害に備えるための読み物です。
p. 24, 35, 51, 81

日々のそなえ 備え **家族で防災会議** 関連
↳ 社会5年「自然災害の防止」

災害が起きたときの行動を家族といっしょに考えておきましょう。避難所の位置や安全な道順を確かめて、実際にそこまで歩いてみたり、家族と連絡を取る方法を決めたりしておきましょう。



東日本大震災で被災した気仙沼の子どもたちの活動を紹介しています。 p. 109

地域の人々とのかわり

人々をはげます「ファイト新聞」 編集部のみなさんのお話

私たちは、避難所のみんなを元気にしたいと思い「ファイト新聞」を作りました。新聞を読んだ方から、「毎日書いているなんてすごいね。」「いつも楽しい記事ありがとう。」「がんばろうと勇気付けられたよ。」「元気が出たよ。」などの感想をいただいて、私たちも心が温かくなったり勇気や元気をもらったりしました。また、もっとみんなをはげますようなことを書きたいと思いました。

私たちが今、伝えたいことは、どんな

につらいことが起きたとしても、自分ができることは何か、みんなを元気にする方法はないかと考え、共にのりこえていってほしいということです。それから、自分で何かを始めれば何でもできるようになること、自分だけでやらずほかの人にたよることも大切だということ、私たちの周りにはやさしい人々がいるということも伝えたいです。震災が起こる以前の気仙沼をこえる気仙沼に、復興したいと願っています。

2011年3月11日に起きた東日本大震災。とてもつらく悲しいできごとでした。その被災地・気仙沼で地域の人々をはげめたいと思って活動した小学生たちがいます。

- ① 「ファイト新聞」第1号
- ② 「ファイト新聞」が気仙沼の避難所で掲示されている様子
- ③ 「ファイト新聞」を読む人々
- ④ 避難所での「ファイト新聞社」
- ⑤ 「ファイト新聞」編集部員